



# 第1回全日本 学生フォーミュラ大会観戦記

山本 武

日本大学大学院理工学研究科機械工学専攻

## はじめに

2003年9月に、社団法人自動車技術会主催の全日本 学生フォーミュラ大会—ものづくり・デザインコンペティション(Student Formula SAE Competition of Japan)の第1回大会が富士スピードウェイで開催された。参加チームは17チームで、脱水症状で倒れる人も出る猛暑の中、優勝を目指して熱戦が繰り広げられた。この大会は学生達に、ものづくりの実践の場を提供することにより、将来の日本の産業界を担うエンジニアの育成とその土壌づくりを目指し、米国で学生向けに行われている Formula SAE の日本版である。ここでは、観客の立場から客観的に全日本 学生フォーミュラ大会を観戦した。

## 大会

第一回大会は2003年9月10日～12日の3日間にわたり開催された。(公式 HP に詳細は・・・<http://www.jsae.or.jp/formula/>) 初日は受付とコスト審査、プレゼンテーション審査、設計審査、車検、プラクティス走行が行われた。その中でも車検通過のハードルが予想以上に高く、通過出来たチームはようやく走れる事に安堵していた。また、プラクティス走行では、翌日の動的審査に向け、綿密な練習を繰り返して

ていた。いよいよ2日目はスキッドパット・アクセラレーション審査やオートクロス・エンデュランス・燃費審査等の動的審査の始まりである。やはり、海外遠征を経験したチームの強さが目立っていたが、単独初参加チームも健闘していた。最終日の午後には、エンデュランス競技が終了しているチームの中からレーシングコース走行に絶え得ると認定された車両を対象に、富士スピードウェイのレーシングコースを走るパレードラップが行われた。そして全競技が終了し、表彰式が行われた。表彰式の合間に懇親会も行われ、チームメイトや大会スタッフが3日間を振り返って大いに盛り上がっていた。そして、14の特別賞が発表された後、上智大学チームの総合優勝で第1回大会の幕を閉じた。



## まとめ

展示された車両は何度も目にしていたが、F-SAE を見るのは初めてであった。しかし、実際に走行し

ている車両を目の当たりにすると、学生だけで製作した物なのか、目を疑った程であった。フォーミュラ SAE は単なるレース大会ではなく、学生に仮想企業を運営させ、アマチュアのクロスカントリーレーサーに販売する事を仮定し、1日当たり4台の生産計画のもとに、車両の実質コストは326万円以下でなくてはなりません。企業を回り資金を集めたり、学生で会社の企画、設計、販売役割を分担する。さらに、仮想販売店社長にプレゼンテーションを行い、設計の工夫点や販売店の儲けをどのくらいになるか説明する等、まさに企業さながらで、通常の学生生活では到底学ぶ事ができない活きた知識を学習できる数少ない場である。

大会を観戦し最も感じた事は、学生達が有意義な経験が出来るのは本人のやる気だけでなく、技術講習会を開いていたり、大会資金を援助していただいた多くの企業や、大会を運営するにあたり、自動車技術会や各大学の先生方、学生ボランティアの方々の多くの協力で成り立っているという事である。ボランティアの皆さんの苦勞と努力を実際に傍で拝見し、非常に自分自身も、第2回大会には、学生ボランティアとして大会に協力していきたいと強く感じた。